

The Meiji logo is displayed in white lowercase letters on a solid orange rectangular background.A decorative graphic consisting of a grid of small orange dots, arranged in 15 rows and 20 columns, positioned to the left of the main text.

第150期
株主レポート

平成20年4月1日～平成21年3月31日

明治製菓株式会社

● 明治グループ経営理念

私たちの使命は、「おいしさ・楽しさ」の世界を上げ、
「健康・安心」への期待に応えてゆくこと。

私たちの願いは、「お客さまの気持ち」に寄り添い、
日々の「生活充実」に貢献すること。

私たち明治グループは、「食と健康」のプロフェッショナルとして、
常に一歩先を行く価値を創り続けます。

CONTENTS

株主の皆様へ	1
事業の概況（連結）	2
業績の推移／連結子会社	5
連結貸借対照表	6
連結損益計算書／連結キャッシュ・フロー計算書 ／連結株主資本等変動計算書	7
単独貸借対照表	8
単独損益計算書 ／単独株主資本等変動計算書	9
新製品紹介	10
Meiji NEWS 明治乳業(株)との経営統合について	12
トピックス	14
役員／従業員／主要な事業所	15
株式の状況	16
株主メモ	17

Jump!11（09-11中期経営計画）

- 1 明治ブランドが、「おいしい・楽しい」「健康」「安心」というイメージで、お客さまから広く認知され、生活の充実に貢献している。
- 2 菓子事業は既存カテゴリーにとらわれない、価値提案力の強化により『菓子メーカーNo.1』の地位を確固たるものにしていく。
- 3 健康事業はさらなる拡大を目指して、美容・スポーツ・ココア分野の深耕を最優先課題として取り組み、カテゴリートップを磐石なものとしている。
- 4 医薬事業は感染症・中枢神経系領域に特化した新薬とジェネリック医薬品の融合戦略により『スペシャリティ&ジェネリック・ファーマ』をより強固なものとしている。
- 5 アジア、米国を重点エリアとした海外での事業展開を加速させ、国内と同等の売上を海外で稼ぎ出す足がかりを築いている。
- 6 安全・安心な商品を提供できる万全な品質保証体制を確立し、さらに、環境配慮商品の発売等環境への配慮や社会貢献活動に積極的に取り組むことでお客さまから強く支持され、信頼を得ている。

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、当社は3月31日をもちまして、第150期事業年度を終了いたしましたので、ここに株主レポートをお届けし、事業の概況等をご報告申し上げます。

当社グループでは、2008年度（2009年3月期）を最終年度とする3ヵ年の中期経営計画「DASH! 08」を推進してまいりました。最終年度にあたる本年度は、米国の金融危機に端を発した世界的な景気減速の影響が消費低迷を加速する大変厳しい環境下にあつて、売上高は、連結・単体ともに四期連続で過去最高を更新し、本年度の連結売上高は4,140億円を達成いたしました。収益面では引き続き原材料価格の高騰および薬価改定等の影響を受け厳しい結果となりましたが、全体としては一定の成果を収めることができたものと考えております。当社グループとしては、これまで強化してきた成長戦略を結実させ、次のステージへ勝ち上がることを狙いとして、新しい中期経営計画「Jump! 11」（2009～2011年度）を策定いたしました。この「Jump! 11」のもと、当社グループは、事業規模および収益の拡大に向けた取組みを推進するとともに、本年4月の明治乳業株式会社との経営統合による統合効果を早期に具現化することで、新生明治グループのもと従来にも増して「成長」と「収益」の両面を追求し、さらなる事業発展の実現に向け邁進してまいります。

菓子事業につきましては、主力ブランドを中心に売上拡大を図るほか、スイーツ事業や新しいコンセプトの商品など、新たな価値の創出を目指してまいります。また、ローコスト生産とミニマムストック&フレッシュサプライを目的とした「MPS（明治製菓生産方式）」をさらに高い次元で昇華させ、高品質で安全・安心な商品の生産に力を注いでまいります。

健康事業につきましては、関連市場の伸長が続いているなかで確固たる地位を築くために、美容、スポーツ、ココア分野を中心に引き続き事業規模の拡大を進めてまいります。特にアミノコラーゲン、ザバス、ココア、イソジンを上・利益両面での四本柱として強化してまいります。飲料分野では、資本業務提携先の株式会社ポッカコーポレーションと協働取組を続けており、ココア飲料のヒットなど一定の成果を挙げておりますが、引き続き両社で様々な商品を発売し、提携効果の最大化を実現してまいります。また、フィットネス事業では業界におけるトップ10以内を目指し、規模拡大を推進し

てまいります。

医薬品事業につきましては、有望な新薬の上市が予定されるなか、感染症・中枢神経系領域に特化した新薬とジェネリック医薬品の融合による「スペシャリティ&ジェネリック・ファーマ」体制をより強固なものにするため、医療ニーズに沿った特徴ある製品群の品揃え強化と得意領域における営業力強化の実施を通して売上拡大を図ってまいります。さらに、ポートフォリオマネジメントやリソースマネジメントの活用等により研究開発の強化に取り組んでまいります。また、農薬事業においてはオリゼメート依存体質からの転換を進めるため除草剤および園芸剤分野でのシェア拡大を目指し、動物薬事業では畜水産分野を中心とした事業展開に加えコンパニオンアニマル分野の拡大を目指します。

海外事業につきましては、フード&ヘルスケア事業・薬品事業とともに、東南アジア、中国、米国を重点エリアとして引き続き事業展開を強化し、売上高に占める海外比率を20%まで高めてまいります。

当社グループは、今後も社会との共生および持続的発展を目指し、CSR活動にもグループ全体で積極的に取り組んでまいります。特に、「品質」「コンプライアンス」「情報」「リスクマネジメント」「環境」「社会貢献」を重点6分野として位置付け、公正で透明性のある経営に取り組んでまいります。安全・安心な商品を提供できる万全な品質保証体制を確立し、さらに環境配慮商品の発売等、環境への配慮や社会貢献活動に積極的に取り組み、お客さまから強い支持と信頼を得ることにより、明治ブランドと企業価値の向上へ繋げてまいります。

今後とも一層のご愛顧ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成21年6月



代表取締役社長 佐藤尚忠

事業の概況（連結）

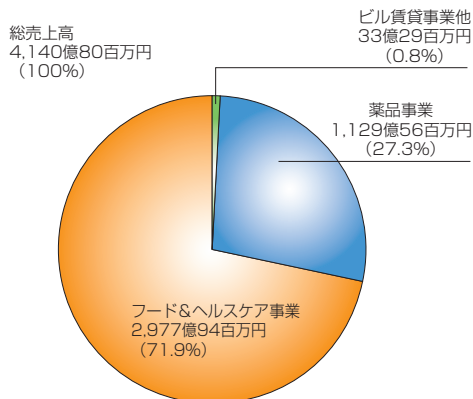
当期は、中期経営計画「DASH! 08」の最終年度であり、計画達成に向けて、新商品開発や既存主力ブランドへの戦略的なマーケティングの展開、重点拡大分野と定めた「健康」「ジェネリック医薬品」「海外」への積極的な戦略投資など、グループの力を結集し、取り組んでまいりました。

この結果、当期における連結売上高は4,140億80百万円（前期比2.3%増）となりました。利益につきましては、コストダウンおよび生産の効率化等に積極的に取り組んだものの、引き続き原材料高騰、大幅な薬価改定等の厳しい影響を受け、また、円高に伴う為替差損の発生等により、経常利益は96億8百万円（前期比17.9%減）となり、当期純利益は、投資有価証券の評価損等により25億56百万円（前期比59.0%減）となりました。

当社グループの事業別売上高の状況は下のグラフのとおりであります。

なお、当期の連結子会社は、5ページに記載しておりません。

●売上高構成比（連結）



フード&ヘルスケア事業は、原材料価格の高騰の影響を強く受けながらも、価格改定の実施、コストダウンなどの取り組みを行ってきました。この結果、連結売上高は2,977億94百万円（前期比3.3%増）となりました。

菓子事業につきましては、既存主力ブランドの強化と新商品展開の強化により全体として堅調に推移しました。チョコレートは、「ミルクチョコレート」がバレンタインを中心に手作り需要を喚起する戦略が奏功し、本年1月に過去最高の出荷を記録するなど順調に推移しました。



「きのこの山」「たけのこの里」はマーケティング戦略の成功により、また「ガルボ」は含浸製法を活かした新商品が牽引し、いずれも大幅に

伸長しました。ガムは、主力の「キシリッシュ」がボトルタイプの落込みにより全体では前期を下回りました。キャンデーは、発売20周年の「果汁グミ」が引き続き増売となるなど、好調に推移しました。



健康事業につきましては、選択と集中による主力ブランドの強化により、全体として順調に推移しました。健康・美容分野では、「アミノコラーゲン」は新商品の発売が寄与し、競争激化のなか好調に推移しました。「ザバス」は減売とな



りましたが、「パーフェクトプラス」は大幅に伸長し、主力ブランドに成長しました。食品分野では、ココアは新商品「コクがおいしいミルクココア」が着実に露出の拡大を進め、シェアを伸ばすなど、好調に推移しました。

OTC（一般用医薬品）では、主力の「イソジンうがい薬」が新商品も加わり、大きく売上を伸ばしました。



海外事業につきましては、輸出は、急激な円高の影響を受け、前期を下回りました。輸入は、主力商品「スナイダーズ」の好調に加え、新規ブランドを積極的に投入し大きく伸長しました。



米国のスタウファー・ビスケット社は、ウォルマート向け販売が順調に推移したものの、円高の影響を受け減売となりました。メイジセイカ・シンガポール社は、「ハローパンダ」など主力品が、現地販売、輸出

とも好調に推移しました。明治制菓(上海)有限公司は、ギフト商品が寄与し増売となりました。

フードクリエイト事業につきましては、前期を上回りました。業務用食材は、製菓材（チョコレート・ココア関連商品）が、外食チェーン・製菓メーカー・コンビニエンスストアへの積極的な商品提案により伸長しました。食材は、農産物や缶詰、業務用カレーが好調に推移しましたが、全体では前期を下回りました。

国内連結子会社の株式会社明治フードマテリアは、主力の砂糖事業、糖化穀粉事業が引き続き伸長し増売となりました。

■菓子事業主要製品

チョコレート（ミルクチョコレート、チョコレート効果、ブラック、ハイミルク、ホワイト、ノワール、ストロベリー、ガトーチョコレート、ガルボ、ガルボチップス、ホルン、ショパン、メルティーキッス、ポルテ、アーモンド、マカダミア、きのこの山、たけのこの里、北海道チョコポテト、フラン、レガ、ブッカ、アポロ、マーブル、チョコベビー、プチアソート、ヤンヤンほか）、ガム（キシリッシュほか）、キャンデー（チエルシー、ヨーグレット、ハイレモン、果汁グミ、ぷぷるん、ポイフル、もぎもぎフルーツ、サイコロキャラメルほか）、スナック（カール、北海道ポテト、ピックアップほか）、ビスケット（マクビティ、コパンほか）

■健康事業（一般用医薬品含む）・フードクリエイト事業主要製品

アミノコラーゲン、ザバス、カシスー i、パーフェクトプラス、ローラ、コクがおいしいミルクココア、テオプロココア、ハイレモンドリンク、銀座カリー、銀座ハヤシ、まるごと野菜、JALスープ、おでんの素、麦茶ジャーミー、農産缶詰ほか
イソジンうがい薬、イソジンウォッシュ、明治Gトローチ、かぜ薬ヘルビックS顆粒、ミニドリンク剤活参28ほか
業務用菓子・食品材料、砂糖、糖化製品ほか

薬品事業は、昨年4月に実施された薬価改定の影響を受けましたが、営業力の強化と徹底的なコストダウンを推進してきました。この結果、連結売上高は1,129億56百万円（前期比0.3%減）となりました。なお、当期より、明治魯抗医薬有限公司を連結子会社としております。

医療用医薬品は、主力製品の拡売努力とジェネリック医薬品の増売などで薬価改定の影響をカバーし、前期並みの売上を確保しました。主力の抗菌薬「メイアクト」および抗うつ



薬「デプロメール」は、通常の薬価改定に加え特例引下げの対象となり減売となりました。一方、ジェネリック医薬品は、医療動向を見据えた取組みが奏功し、既存品



が順調に伸長しました。加えて、カルシウム拮抗薬「アムロジピン錠 明治」は、昨年7月の発売以降好調に売上を伸ばし、全体として大幅な増売となりました。さらに、一昨年同期より万有製薬株式会社と実施している気管支喘息治療薬・アレルギー性鼻炎治療薬「シングレア」の共同販促による報酬増も売上に寄与しました。



農薬は、いもち病および害虫の発生が少なく、競合品の攻勢など厳しい環境のなか、主力のいもち病防除剤

「オリゼメート」が減売となり、全体でも前期を下回りました。動物薬は、飼料メーカー向け栄養剤やコンパニオンアニマル用薬などが増売となりましたが、飼料原料高騰による買控えの影響などにより家畜用薬が減売となり、全体として前期を



下回りました。

海外事業につきましては、主力の「メイアクト」は、欧州を中心に大幅に売上を伸ばし、全体とし



て好調に推移しました。スペインのテック・メイジ・ファルマ社およびタイ・メイジ・ファーマシューティカル社は、現地向け販売・輸出が順調に推移するも、円高の影響で減売を余儀なくされました。東南アジアのメイジ・インドネシア・ファーマシューティカル社は、円高の影響を受けながらも現地向け販売が好調で、増売となりました。

■薬品事業主要製品

・医療用医薬品

抗菌薬（メイアクト、ホスミシン、ハベカシン、スオード、オメガシンほか）、中枢神経系用薬（抗うつ薬デプロメール、抗不安薬メイラックス）、その他の医療用医薬品（外用消毒剤イソジン、アレルギー性疾患治療薬エバステル、抗悪性腫瘍剤テラルピシン、抗ウイルス化学療法剤ビクロックスほか）、人体用ワクチン

・農薬 動物薬

農薬（Dr.オリゼプリンス、オリゼメート、ハービー、アグレプト、ジベレリンほか）、動物薬（メイポール、メイリッチ、アストップ、マイコバスター、マリンバンテル、パナメクチンチュアブルP、ウェルメイトL3ほか）、飼料添加物（コリスチン、セルラーゼほか）

ビル賃貸事業他

主力のオフィスビル「ソリッドスクエア」は高入居率を維持し、堅調に推移しました。この結果、ビル賃貸事業他の連結売上高は、33億29百万円（前期比8.6%増）となりました。なお、当期より、明治ビジネスサポート株式会社を連結子会社としております。



ソリッドスクエアビル

連結貸借対照表

(平成21年3月31日現在)

(単位：百万円)

科目	当期	前期	科目	当期	前期
資産の部	330,878	348,609	負債の部	186,024	193,498
流動資産	147,174	149,550	流動負債	121,224	90,692
現金および預金	9,747	11,802	支払手形および買掛金	31,629	31,185
受取手形および売掛金	74,514	78,834	短期借入金	24,861	15,569
たな卸資産	—	47,667	1年以内償還社債	20,000	—
商品および製品	31,216	—	コマーシャルペーパー	3,000	6,000
仕掛品	1,577	—	リース債務	146	—
原材料および貯蔵品	17,218	—	未払費用	12,654	12,506
繰延税金資産	8,956	7,136	未払法人税等	4,157	2,982
その他	4,004	4,142	賞与引当金	3,935	3,931
貸倒引当金	△ 61	△ 31	売上割戻引当金	5,503	5,213
固定資産	183,704	199,059	その他	15,335	13,304
有形固定資産	145,436	145,554	固定負債	64,800	102,805
建物および構築物	74,412	75,995	社債	35,000	55,000
機械装置および運搬具	41,638	40,000	長期借入金	8,805	21,377
工具器具備品	2,256	2,156	リース債務	637	—
土地	23,577	24,486	長期繰延税金負債	7,811	11,422
リース資産	1,034	—	退職給付引当金	9,990	11,205
建設仮勘定	2,517	2,915	役員退職慰労引当金	215	236
無形固定資産	3,683	6,078	その他	2,340	3,562
のれん	1,319	2,855	純資産の部	144,854	155,111
その他	2,364	3,223	株主資本	143,543	144,087
投資その他の資産	34,583	47,426	資本金	28,363	28,363
投資有価証券	30,948	42,827	資本剰余金	34,935	34,947
長期繰延税金資産	462	361	利益剰余金	80,280	84,306
その他	4,100	5,155	自己株式	△ 36	△ 3,530
貸倒引当金	△ 928	△ 917	評価・換算差額等	△ 3,658	7,171
資産合計	330,878	348,609	その他有価証券評価差額金	3,114	8,631
			繰延ヘッジ損益	△ 3,781	△ 1,886
			為替換算調整勘定	△ 2,990	425
			少数株主持分	4,968	3,852
			負債および純資産合計	330,878	348,609

(注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 234,917百万円 228,347百万円
 2. 受取手形割引高 152百万円 99百万円

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

(単位：百万円)

科目	当期	前期
売上高	414,080	404,711
売上原価	246,110	234,228
返品調整引当金戻入額	90	70
差引売上総利益	168,060	170,553
販売費および一般管理費	157,261	157,827
営業利益	10,798	12,725
営業外収益	2,352	2,962
受取利息・配当金	790	1,044
持分法による投資利益	—	73
その他の営業外収益	1,561	1,845
営業外費用	3,541	3,987
支払利息	1,637	1,555
持分法による投資損失	304	—
その他の営業外費用	1,600	2,432
経常利益	9,608	11,701
特別利益	1,593	2,261
固定資産売却益	1,428	1,739
投資有価証券売却益	0	462
その他の特別利益	165	59
特別損失	3,199	1,876
固定資産廃棄損	1,016	1,326
統合関連費用	854	—
投資有価証券評価損	693	—
関係会社株式評価損	122	—
製品回収費用	105	338
その他の特別損失	408	212
税金等調整前当期純利益	8,002	12,086
法人税、住民税および事業税	5,041	4,383
法人税等調整額	△ 7	1,157
少数株主利益	413	304
当期純利益	2,556	6,240

(注) 1株当たり当期純利益 6円74銭 16円46銭

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

(単位：百万円)

科目	当期	前期
営業活動による キャッシュ・フロー	22,424	13,525
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 16,024	△ 28,939
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 9,073	12,105
現金および 現金同等物に係る換算差額	△ 289	143
現金および 現金同等物の増減額(減少:△)	△ 2,962	△ 3,164
現金および 現金同等物の期首残高	11,792	14,513
新規連結による現金 および現金同等物増加額	918	443
現金および 現金同等物の期末残高	9,747	11,792

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書

(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本					評 価 ・ 換 算 差 額 等				少数株主 持 分	純資産 合 計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合 計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損 益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
前 期 末 残 高	28,363	34,947	84,306	△ 3,530	144,087	8,631	△ 1,886	425	7,171	3,852	155,111
当 期 変 動 額											
剰余金の配当			△ 2,653		△ 2,653						△ 2,653
在外子会社の会計処理の変更に伴う増減			△ 710		△ 710						△ 710
当期純利益			2,556		2,556						2,556
自己株式の取得				△ 70	△ 70						△ 70
自己株式の処分		△ 9		41	31						31
自己株式消却額		△ 2	△ 3,519	3,522	—						—
連結子会社の増加による剰余金増加高			301		301						301
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						△ 5,517	△ 1,895	△ 3,415	△ 10,829	1,116	△ 9,713
当期変動額合計	—	△ 12	△ 4,025	3,493	△ 544	△ 5,517	△ 1,895	△ 3,415	△ 10,829	1,116	△ 10,257
当 期 末 残 高	28,363	34,935	80,280	△ 36	143,543	3,114	△ 3,781	△ 2,990	△ 3,658	4,968	144,854

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

単独貸借対照表

(平成21年3月31日現在)

(単位：百万円)

科目	当期	前期	科目	当期	前期
資産の部	306,341	315,779	負債の部	172,371	175,820
流動資産	126,256	123,754	流動負債	111,057	77,659
現金・預金	5,676	4,979	買掛金	26,193	24,438
受取手形および売掛金	62,417	66,437	短期借入金	21,003	10,263
商品および製品	27,273	25,058	1年以内償還社債	20,000	—
仕掛品	1,123	1,985	コマーシャルペーパー	3,000	6,000
原材料および貯蔵品	14,180	12,314	リース債務	123	—
繰延税金資産	8,002	6,108	未払金	6,735	7,505
その他の流動資産	7,594	6,884	未払費用	10,780	10,360
貸倒引当金	△ 12	△ 15	未払法人税等	3,405	2,208
固定資産	180,085	192,025	賞与引当金	3,367	3,411
有形固定資産	121,715	121,961	返品調整引当金	180	270
建物および構築物	63,703	64,920	売上割戻引当金	5,503	5,213
機械装置	32,817	31,194	その他の流動負債	10,766	7,988
車両運搬具	80	91	固定負債	61,314	98,160
工具器具備品	1,671	1,471	社債	35,000	55,000
土地	20,737	21,584	長期借入金	7,295	18,663
リース資産	588	—	リース債務	495	—
建設仮勘定	2,115	2,698	長期繰延税金負債	7,531	10,752
無形固定資産	1,888	2,656	退職給付引当金	8,858	10,307
投資その他の資産	56,481	67,408	役員退職慰労引当金	186	206
投資有価証券	21,138	31,922	長期未払金	8	—
関係会社株式	24,103	24,157	債務保証損失引当金	—	271
出資金	480	500	その他の固定負債	1,939	2,959
関係会社出資金	6,102	6,102	純資産の部	133,969	139,959
長期貸付金	3,787	3,937	株主資本	134,725	133,433
長期前払費用	60	—	資本金	28,363	28,363
その他の投資	1,721	1,705	資本剰余金	34,935	34,947
貸倒引当金	△ 912	△ 917	資本準備金	34,935	34,935
資産合計	306,341	315,779	その他資本剰余金	—	12
			利益剰余金	71,463	73,651
			利益準備金	7,090	7,090
			その他利益剰余金	64,372	66,561
			固定資産圧縮積立金	19,865	20,521
			別途積立金	42,000	39,000
			繰越利益剰余金	2,507	7,039
			自己株式	△ 36	△ 3,530
			評価・換算差額等	△ 755	6,526
			その他有価証券評価差額金	3,028	8,411
			繰延ヘッジ損益	△ 3,784	△ 1,885
			負債および純資産合計	306,341	315,779

(注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 209,631百万円 203,158百万円
 2. 受取手形割引高 95百万円 99百万円

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

単独損益計算書

(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

(単位：百万円)

科目	当期	前期	科目	当期	前期
売上高	306,112	301,558	特別損失	3,191	2,821
売上原価	156,015	148,957	固定資産廃棄損	944	1,194
返品調整引当金戻入額	90	70	経営統合関連費用	854	—
差引売上総利益	150,187	152,670	投資有価証券評価損	668	0
販売費および一般管理費	142,830	142,875	関係会社出資金評価損	—	798
営業利益	7,356	9,794	製品回収費用	43	338
営業外収益	3,312	3,547	債務保証損失引当金繰入額	—	271
受取利息・配当金	1,699	1,753	関係会社株式評価損	453	99
雑収入	1,612	1,793	その他の特別損失	227	119
営業外費用	1,846	3,550	税引前当期純利益	7,487	9,423
支払利息	1,466	1,379	法人税、住民税および事業税	3,557	2,842
雑損	379	2,171	法人税等調整額	△ 54	1,347
経常利益	8,822	9,791	当期純利益	3,984	5,234
特別利益	1,855	2,454			
固定資産売却益	1,422	1,718			
投資有価証券売却益	0	462			
債務保証損失引当金戻入益	271	—			
貸倒引当金戻入益	8	219			
その他の特別利益	153	53			

(注) 1株当たり当期純利益

10円51銭

13円81銭

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

単独株主資本等変動計算書

(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本									評価・換算差額等				純資産合計	
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金			自己株式	株主資本合計	その他の有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金							利益剰余金合計
前期末残高	28,363	34,935	12	34,947	7,090	20,521	39,000	7,039	73,651	△ 3,530	133,433	8,411	△ 1,885	6,526	139,959
当期変動額															
剰余金の配当								△ 2,653	△ 2,653		△ 2,653				△ 2,653
固定資産圧縮積立金積立額						693		△ 693	—		—				—
固定資産圧縮積立金取崩額							△ 1,349	1,349	—		—				—
別途積立金積立額							3,000	△ 3,000	—		—				—
当期純利益								3,984	3,984		3,984				3,984
自己株式の取得										△ 70	△ 70				△ 70
自己株式の処分			△ 9	△ 9						41	31				31
自己株式消却額			△ 2	△ 2				△ 3,519	△ 3,519	3,522	—				—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)												△ 5,383	△ 1,898	△ 7,282	△ 7,282
当期変動額合計	—	—	△ 12	△ 12	—	△ 655	3,000	△ 4,532	△ 2,188	3,493	1,292	△ 5,383	△ 1,898	△ 7,282	△ 5,989
当期末残高	28,363	34,935	—	34,935	7,090	19,865	42,000	2,507	71,463	△ 36	134,725	3,028	△ 3,784	△ 755	133,969

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

フード&ヘルスケア

●フランホイップス (苺、キャラメル)

フランの原点である“ホイップ”にこだわり、極限まで軽くふんわりとさせたホワイトショコラをココア味のビスケット軸にたっぷりコートしました。

「フランホイップス苺」はフルーティな香りあふれる粒々苺ショコラでカバーし、「フランホイップスキャラメル」は香ばしい粒々マカダミア入りのキャラメルミルクショコラでカバーしました。



●キシリッシュカラーボトル (クリスタルミント、フルーティミント、フレッシュレモン)

息、透きとおる！W (ダブル) で息・キレイ！ミントリーフ+ラッカーゼ配合で噛み心地とスッキリ感を改良。



定番のミドルミントタイプのクリスタルミント、ジューシーな味わいを強めて登場のフルーティなライトミントタイプのフルーティミントと、爽快レモンフレーバーのフレッシュレモンの3品がオフィス、家庭、車内に便利な、華やかに彩るカラーボトルで登場です。

●キシリッシュオレンジベルガモット (ロングラスティング)

進化し続けるキシリッシュガム。全アイテムの品質を見直し、従来の「息スッキリ」に加え「味長持ち」を実現しました。

また木村拓哉さんを起用したコミカルなTVCMも話題となりました。

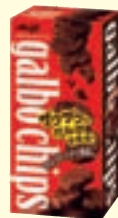
新製品として大人のオレンジ味「オレンジベルガモット」が登場し店頭を賑わしました。



木村 拓哉

●ガルボチップス

ザクザク食感！なのにチョコたっぷり！チョコを焼き菓子にぎゅっと染みこませる独自の製法で、ザクザク噛むたびにチョコの濃厚な味わいが広がる、新感覚のガルボができました。



●メルティーキッス ダークラム

「口溶け」と「なめらかさ」が特徴のメルティーキッス。

高品質なラムの香りとチョコレートのコクが楽しめる大人の味わいです。



●カールお好み焼きあじ

和田アキ子さんプロデュースの「アッコ風お好み焼き味」が登場！

カールのイメージキャラクターの和田アキ子さんがカールのお好み焼き味をプロデュース。完成品を召し上がった和田さんが「これめっちゃウマイやん！」ともらしたおいしさを是非体験してください。



●じゃがママ ペッパーソルト

じゃがいものおいしさをそのままスナックに！フレンチフライをイメージした櫛型のポテトスナックです。ノンフライならではのざっくりした歯ごたえが楽しめます。

皮付きポテトをイメージした焼き色とこんがり感もリアルに再現。シンプルながら、濃厚なペッパーソルト味がポテトの風味を引き立てます。



●うす焼きショコラ

亀田製菓(株)の人気商品「サラダうす焼き」に明治製菓のチョコレートをとたっぷりコーティングさせたチョコレートと米菓の新しい商品です。



●アミノコラーゲンプレミアム

アミコラの基本配合に「ヒアルロン酸60mg」、「COQ10 10mg」を求められる美容のための成分として、さらにプラス配合した商品です。



●アミノコラーゲントableット

5粒あたり1,000mgの低分子化フィッシュコラーゲンを配合した、「サプリメントはタブレットで摂りたい」というニーズに応えた商品です。



●ザバス アミノ2000

「大豆ペプチド」をベースとしたタブレットで、運動後のスムーズなリカバリーに必要なアミノ酸を凝縮したタブレットです。



●ザバスアクア アセロラ風味

スポーツドリンク感覚で好評の「アクア」に、ほのかな酸味が楽しめるアセロラ風味が新登場。スポーツ時に飲みやすい爽やかなテイストに仕上げました。



●コクがおいしいミルクココア

独自の「2段階ロースト製法」と「焦がしミルク」で理想のコクと香りを目指したミルクココアです。



●コクがおいしいアイスココア

独自の製法でカカオのコクを際立たせ、溶けやすい顆粒タイプのアイスココアです。体にやさしいカルシウムとビタミンDを配合しました。



●銀座カレー チーズと舞茸

本格洋食屋仕立てのソースに、とろけるチーズと食感の良い舞茸をトッピングした期間限定の銀座カレーです。



●銀座キーマカレー

洋食の技を活かし、手間をおしまわずじっくりと時間をかけて仕上げた洋食仕立てのキーマカレーです。



●パーフェクトプラス ダイエットビスケット 黒ごま

太りたくない人がカロリーをコントロールしながら、おいしく、おやつ感覚で食べられる黒ごま味のダイエットビスケットです。



●パーフェクトプラス デスクの朝食 はちみつトースト味

新しい朝食のスタイルを提案する、食べ応えある食感の朝専用バランス栄養食品です。一日の始まりにお勧めのブドウ糖とカフェインを配合しました。



●パーフェクトプラス プロテインダイエット 15P

牛乳で溶かすことによって美味しく摂れる、おなか満足成分とL-カルニチンを配合した食事代替型のダイエット食品です。



●イソジンうがい薬P

今年で発売25周年を迎えたトップブランドの「イソジン」に、女性や子供でも使いやすい新フレーバーを発売。後味さわやか「ほんのりフルーティー」。



「明治ホールディングス株式会社」がスタートしました！

2009年4月1日、明治製菓株式会社（以下「明治製菓」）と明治乳業株式会社（以下「明治乳業」）の経営統合に伴い、「明治ホールディングス株式会社」を持株会社とする新生「明治グループ」がスタートいたしました。明治製菓と明治乳業の両社は90年以上にわたり、お客さまに愛されてきた「明治ブランド」という共通の財産を持ち、高い研究開発力と技術力、強いマーケティング力、さらには高度な品質保証体制のもと、事業を営んでまいりました。新生「明治グループ」は、こうした両社の良いところ、強いところをさらに伸ばし、これまでにない新たな「おいしさ・楽しさ・健康・安心」の世界を拓き、お客さまの日々の生活充実に貢献することを目指してまいります。

■ 会社概要

- 商号 明治ホールディングス株式会社
(英文名: Meiji Holdings Co., Ltd.)
- 事業内容 菓子、牛乳、乳製品、薬品等の製造、販売等を行う子会社等の経営管理およびそれに付帯または関連する事業
- 本社所在地 東京都中央区京橋二丁目4番16号
- 代表取締役社長 佐藤 尚忠
- 代表取締役副社長 浅野 茂太郎
- 設立 2009年4月1日
- 資本金 300億円
- グループ 1兆1,254億74百万円
年間売上高 (明治製菓・明治乳業両社の2008年度連結売上高の合計)
- グループ 14,127人
従業員数 (明治製菓・明治乳業両社の2009年3月31日現在の連結従業員数の合計)



■ 平成22年3月期連結業績予想

売上高	1兆1,430億円
営業利益	250億円
経常利益	250億円
当期純利益	115億円



2009年4月1日、日本経済新聞（朝刊）に企業広告として掲載したものです。

グループ理念

私たちの使命は、「おいしさ・楽しさ」の世界を拡げ、
「健康・安心」への期待に応えてゆくこと。

私たちの願いは、「お客さまの気持ち」に寄り添い、
日々の「生活充実」に貢献すること。

私たち明治グループは、「食と健康」のプロフェッショナルとして、
常に一步先を行く価値を創り続けます。

明治ブランドマーク



グループ理念を象徴する、私たちの明治ブランドマークです。

ふくよかで柔らかな書体、親しみのある小文字を使用することによって、「食と健康」の企業グループらしい明るさと、お客さま一人ひとりとのあたたかいつながりを表現しました。

「iji」の造形には、人びとが寄り添い支えあう姿を託しています。

ブランドカラーはレッド。躍動感や生命のよろこびを感じさせる色であり、人が生まれて最初に知る色でもあります。赤ちゃんからお年寄りまで、あらゆる世代の人びとのそばにあって、愛され続ける存在でありたいという思いを込めました。

この明治ブランドマークは、グループ理念を实践しようとする私たち自身の、志のシンボルです。

経営姿勢：5つの基本

1. 「お客さま起点」の発想と行動に徹する。
2. 「高品質で、安全・安心な商品」を提供する。
3. 「新たな価値創造」に挑戦し続ける。
4. 「組織・個人の活力と能力」を高め、伸ばす。
5. 「透明・健全で、社会から信頼される企業」になる。

行動指針：meiji way

お客さまの、パートナーの、仲間たちの、
「そばになくてはならない存在」であるために

1. お客さまと向き合って、お客さまから学ぶ。
2. 先を見る勘を鍛え、先駆ける技を磨く。
3. 仕事をおもしろくする、おもしろい仕事を創る。
4. 課題から逃げない、やりぬく気概と勇気を持つ。
5. チームの可能性を信じ、チームの力を活かす。



「ガルボチップス」が優秀ヒット賞を受賞！

不思議食感がコンセプトの「ガルボ」ブランドに、ザクザクした歯ごたえの新感覚チョコスナック「ガルボチップス」を発売しました。

チョコレートが65%入っているので、噛むたびにチョコレートが「じゅわっ」と染み出てくるような濃厚な味わい。さらに手が汚れにくく一口サイズでポイポイ食べたくなる味で、ヤング層だけでなくファミリーや男性層にまで幅広いお客さまの支持を受け、昨秋の大ヒット商品になりました。

TVCMも発売に合わせ、初登場から12年ぶりに広末涼子さんを起用し、商品特徴をしっかりとお客さまに伝えられたこともヒットに繋がりました。

新製品の市場定着が難しいなか、「ガルボチップス」は現在もチョコスナックの人気商品とお客さまに支持されており、昨年の「北海道チョコポテト」に続き、日本食糧新聞社が主催する『食品ヒット大賞』で「優秀ヒット賞」を受賞いたしました。



POKKA P プロジェクト報告

当社では、2008年1月に株式会社ポッカコーポレーション(以下「ポッカ」)と包括的な資本・業務提携契約を締結し、両社の強みを活かした様々な取組みを進めております。両社で設置したプロジェクトチームでは、開発、営業、調達、生産、物流など幅広い分野で検討を進めておりますが、その中からいくつかの取組みをご紹介します。



1 コラボ商品ぞくぞく発売！

当社とポッカは、お互いの持つブランドを活用した商品をぞくぞくと発売しています。菓子と飲料の新たなコラボレーションは、お客様からも高い評価をいただいております。今後も様々な形で商品を開発、発売してまいります。



2 ミルクココア缶飲料が販売好調！

新生明治ミルクココアの発売に併せ、自動販売機を始めとしたポッカの飲料販売ルートにて「ココがおいしいミルクココア280g缶/195gカートカン」を発売いたしました。当社のブランドや商品品質が高く評価されたことにより自動販売機への導入が広がり、好調な販売を記録しました。この勢いを継続するべく、春夏は「ココがおいしいアイスココア280g缶」を販売するほか、秋以降はさらに品質を高めた2年目のミルクココアを発売いたします。



役員

(平成21年6月24日現在)

●取締役および監査役

※	代表取締役社長	佐高	尚	忠
※	代表取締役副社長	高松	昭	男
※	専任取締役	塚西	正	彦
※	専任取締役	溝口	治	信
※	専任取締役	高橋	祥	彦
※	専任取締役	佐藤	秀	樹
※	専任取締役	工藤	美	正
	常任監査役	福森	利	一
	常任監査役	山井	知	夏
	常任監査役	星野	健	男
	常任監査役		修	一
	常任監査役		一	邦

(注) 上記※印の取締役は執行役員を兼任しております。

●執行役員

常務執行役員	小内	村定	昭
常務執行役員	荒森	田仁	雄
常務執行役員	浅田	森隆	造
常務執行役員	横路	文隆	雄
執行役員	中村	論紀	雄
執行役員	河野	良治	二
執行役員	中野	慎二	雄
執行役員	小松	春央	晴
執行役員	木下	統男	保
執行役員	上坂	明文	一
執行役員	古谷	純昭	二
執行役員	大神	村安	郎
執行役員	神井	座理	知
執行役員	村左	川	男
執行役員	岸黒	田	士
執行役員	岸田	子	之
執行役員	富田	博	浩

従業員

(平成21年3月31日現在)

従業員数(前期比)	平均年齢	平均勤続年数
3,803名(37名減)	40.2歳	16.9年

(注) 従業員数には当社から他社への出向者が含まれており、臨時従業員は含まれておりません。

主要な事業所

(平成21年3月31日現在)

本社

東京都中央区京橋二丁目4番16号

営業所

フード&ヘルスケア／北海道統括支店(札幌)、東北統括支店(仙台)、首都圏統括支店(東京)、北関東統括支店(宇都宮)、中部統括支店(名古屋)、関西統括支店(大阪)、中四国統括支店(広島)、九州統括支店(福岡)、健康事業北海道支店(札幌)、健康事業東北支店(仙台)、健康事業首都圏支店(東京)、健康事業北関東支店(宇都宮)、健康事業中部支店(名古屋)、健康事業関西支店(大阪)、健康事業中四国支店(広島)、健康事業九州支店(福岡)

薬品／薬品札幌支店、薬品仙台支店、薬品東京支店、薬品横浜支店、薬品関東支店(さいたま)、薬品名古屋支店、薬品京都支店、薬品大阪支店、薬品中国支店(広島)、薬品四国支店(高松)、薬品福岡支店、農薬札幌支店ほか5農薬支店、動薬北日本支店(仙台)ほか3動薬支店

工場

フード&ヘルスケア／関東工場(坂戸)、東海工場(藤枝)、大阪工場(高槻)
薬品／北上工場、小田原工場、岐阜工場(北方)

研究所

フード&ヘルスケア／食料健康総合研究所(坂戸)
薬品／バイオサイエンス研究所(小田原)、医薬総合研究所(横浜)、生物産業研究所(横浜)

海外事務所

北京事務所、マドリッド事務所

(注) () 内は、当該事業所が所在する都・市・町名を示しております。

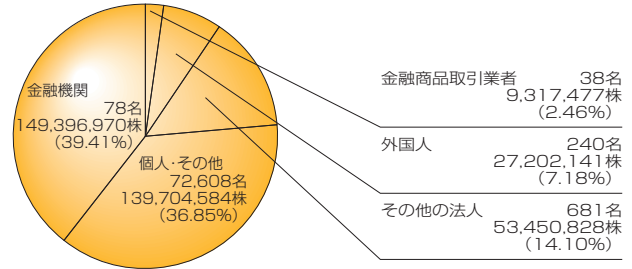
株式の状況

(平成21年3月31日現在)

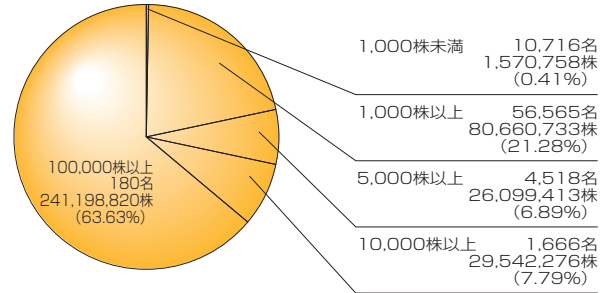
- 発行可能株式総数 796,104,000株
- 発行済株式の総数 379,072,000株
- 株主数 73,645名 (前期末に比し1,452名増)
- 大株主 (上位10名)

株主名	持株数 (出資比率)	
	千株	%
株式会社みずほ銀行	18,763	(4.95)
第一生命保険相互会社	16,163	(4.26)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	15,165	(4.00)
日本生命保険相互会社	14,707	(3.88)
明治乳業株式会社	10,811	(2.85)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	10,387	(2.74)
富国生命保険相互会社	10,001	(2.64)
株式会社三菱東京UFJ銀行	6,804	(1.80)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	6,798	(1.79)
東京海上日動火災保険株式会社	6,512	(1.72)

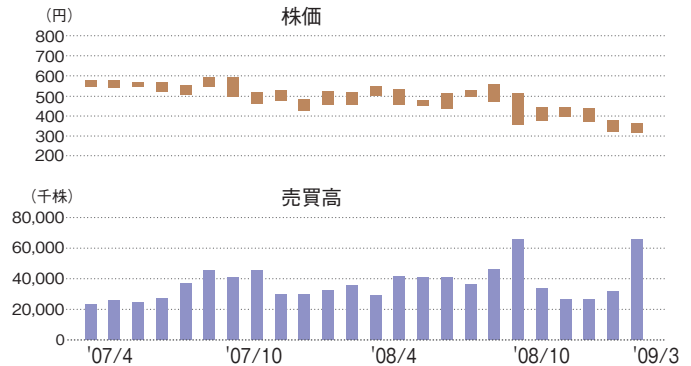
所有者別



持株数別



株価等の推移



株主メモ

明治ホールディングス株式会社

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

基準日 期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
(明治ホールディングス株式会社の平成22年3月期は期末配当のみ)
※別途定める場合は、予め公告します。

定時株主総会 6月下旬
(明治ホールディングス株式会社の第1回定時株主総会は、平成22年6月下旬開催予定)

単元株式数 100株

上場証券取引所 東京証券取引所

公告方法 電子公告により行います。
公告掲載URL <http://www.meiji.com/>
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。
なお、会社法第440条第4項の規定により、決算公告は行いません。

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行株式会社）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行株式会社が口座管理機関となっておりますので、上記の連絡先にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店にてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行株式会社 本支店でお支払いいたします。

■株主様へのご優待

平成21年3月31日現在、明治製菓株式会社の株式1,000株以上ご所有の株主様には、従来の株主優待に代えて、以下の基準で明治製菓株式会社および明治乳業株式会社の製品の詰合せを、平成21年10月末頃に贈呈いたします。また、株主様のご意志により、優待品を株主様へのご送付に代えて福祉団体へご寄贈いただくこともできることとしております。

- 1,000株以上：2,000円相当
- 3,000株以上：3,500円相当
- 5,000株以上：5,000円相当

〈株主優待全般に関するお問合せ先〉

 0120-782-558

受付時間：平日9:00～17:00

受付期間：平成21年6月29日(月)～12月25日(金)

〈お問合せ先〉

明治製菓株式会社

〒104-8002

東京都中央区京橋二丁目4番16号

電話 (03) 3272-6511 (代表)



ホームページ (<http://www.meiji.co.jp>)

〈株式に関するお問合せ先〉

明治ホールディングス株式会社

〒104-0031

東京都中央区京橋二丁目4番16号

電話 (03) 3273-4001 (代表)

ホームページ (<http://www.meiji.com/>)

meiji



本冊子は、環境保全のため、
「大豆インキ」で印刷しています。